

議会だより

News Letter From Hachijo Town Assembly

 八丈町

No.193

2020.2.25 発行

議会だよりは八丈町のホームページでもご覧いただけます
<http://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/gikai/gikaidayori.html>



町立図書館
「おはなしの会」



紙を切って・折って・貼って・つないで
かわいいクリスマスツリーを作りました

町立図書館では、毎月第二土曜日の10:00~11:00に子ども向けの「おはなし会」を開催しています。担当は各地区で読み聞かせをしている“文庫連絡会”と布絵本「結（ゆい）の会」、図書館のメンバーで、絵本の読み聞かせとたのしい工作等を行います。参加費無料、申し込みなしで当日参加の自由な会です。この日は三根の“こっこめ文庫”が担当し、たくさんの親子連れで盛況でした。（文庫連絡会各地区の活動は、お店等のポスターを見てね！）

取材 沖山恵子

CONTENTS

病院問題、防災対応などを
中心に議論。

- 2P 第4回定例会
- 3P 一般質問（12月定例会）
- 10P 質疑より
- 11P 滋賀県大津市・神奈川県相模原市
行政視察報告



読み聞かせに引きこまれる子どもたち

第4回定例会

令和元年 12月9、10、11日

病院問題、防災対応などを中心に議論。

厚生労働省が9月26日に発表した「病院再編・統合リスト」に町立八丈病院がリストアップされた事を受け、一般質問、予算審議を通じてこれら問題に関する議論が多くなされました。さらに昨年、伊豆諸島北部に甚大な被害を及ぼした台風15号をはじめ、各地の気象災害を受け、防災対応に関する質問も多く出されました。

30年度一般・特別会計決算認定

また本議会では、30年度一般会計および特別会計決算認定が行われました。両会計を合わせた決算額は、歳入101億123万2千円、歳出は98億8172万7千円で、単年度収支は4425万円の黒字決算でした。しかし、各部門での徴税未収額は年々減少しているものの、市町村税の徴税実績は都内39市町村の中でも下位にランクされていること。100万円以上の不用額（予算額のうち当年度に使う必要がなくなった額）を出した科目が15科目にもものぼること等に対し、有効な手立てが必要である旨、決算審査意見書で指摘されています。

意見書2件提出

今回は「新たな過疎対策法の制定に関する意見書」「都立広尾病院を地方独立行政法人とすることなく、東京都の直営病院として、都が責任をもって運営していくことを求める意見書」が議員提案によって提出されました。前者については可決。後者については「今の段階での提

出は時期尚早」との意見があり、賛成少数で否決されました。

～初の住民懇談会開催される～



未だ正式な議会活動ではありませんが、新たな活動のひとつに掲げた「住民との懇談会」を11月26日に開催しました。今回は、看護師の方々から寄せられた人員不足による現場の窮状が話題の中心となり、参加者一同でこの問題について共有しました。

～病院職員へのヒアリング実施～

町立八丈病院の問題は、八丈町にとって最重要課題です。この件について、さらなる状況把握のために、議長、総務文教委員長、経済企業委員長、議会運営委員長4名の調査チームを結成し、12月17日には看護師長に、続いて1月16日には他職種の病院職員の方々にヒアリングを実施しました。皆さんの意見を受けて、議会では今後どのような政策が提言できるか議論を重ねたいと考えます。

主な議決事項

12月定例会 令和元年12月9、10、11日開催

- ◎ 専決処分事項の報告及び承認について（平成31年度八丈町一般会計補正予算）ほか専決処分1件
- ◎ 平成31年度八丈町一般会計補正予算ほか補正予算7件
- ◎ 八丈町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例 ほか条例7件
- ◎ 消防団防火服購入契約
- ◎ 平成30年度八丈町一般会計決算認定について ほか決算認定4件

- ◎ 平成30年度八丈町一般会計継続費精算報告について ほか報告1件
- ◎ 新たな過疎対策法の制定に関する意見書ほか意見書1件
- ◎ 天皇陛下御即位「賀詞」奉呈について
- ◎ 議員の派遣承認について（フリージアまつり表敬訪問）

主な会議事項

議会運営委員会 令和元年12月2日開催

- ◎ 令和元年第四回八丈町議会定例会について

一般質問

12月9、10、11日

質問者8人

12月定例会では、町政全般へ8名の議員が22項目にわたる一般質問を行いました。掲載した原稿については、質問議員が作成しています。なお、紙面の都合上、質問内容、回答ともに要約したものととなっておりますのでご了承ください。

質問の録画映像はインターネットでもご覧いただけます。

<http://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/gikai/movie/movie304.html>

氏名	質問項目
宮崎陽子	町立八丈病院の再編・統合再検証について 八丈町と議会BCPの位置づけについて
山本忠志	町立学校のエアコン整備およびタブレット導入の計画は 災害に強い八丈町へ
浅沼隆章	自然災害発生時の対応について バス乗り場の乗客の安全と地域の安全について オリンピック・パラリンピックにおける八丈町の対応や観光客等の受け入れ準備について 町立八丈病院の町の方針について 観光と交通弱者対策について
金川孝幸	檜立地区の避難所について 避難所の機能検証と防災意識向上について 防災訓練の見直しと自助・共助の浸透について 大島町や新島村で発生した大きな災害への支援について
沖山恵子	災害時の避難所の運営体制等はどうなっているか
山下巧	生ゴミを資源化する施策の推進について 地域の分割統合について 医師看護師不足とカード決済サービスについて 火葬場に塩清めの流し台設置について
岩崎由美	島誌編纂の今後の予定は 持続可能な八丈町のための施策づくりの推進を
山下則子	高齢者の移動手段としてのシニアカーに補助金を 女性がん患者のウィッグ購入に助成を



宮崎陽子議員

所要時間 19分

町立八丈病院の再編・統合再検証について

問 今年9月、厚生労働省から公立病院の再編や統合を再検証するべきという理由により全国424の病院について実名が公表された。その中に、町立八丈病院も含まれていた事によって島に住む人々の不安の声が広がっている。病院がなくなってしまうのでは？という

風評被害に繋がる現状でもある。今後、町立八丈病院の地域医療構想はどのような展開になるのか、再検証について問う。

答 事務長 厚生労働省が突然、十分な説明もなくこのような公表をした事により、住民の皆さんの不安が広がっていたので、その真意を確かめるため、10月28日に開かれた厚生労働省の説明会に出席した。結論から申し上げますと統廃合を決めるのではなく、病院が担うべき方向性を指示するものでもない。従って、町立八丈病院が他の病院に統合や廃止されることはない。政府は、地域医療構想の議論を促進するため、データを公表したというものであり、検証

を促しているところである。2025年に向けて八丈島という離島の地理的要因を考えて医療体制の方向性を定めることになっている。島しょ地域医療圏唯一の病院として、位置づけられている町立八丈病院の統合廃止はありえないので、ご安心いただきたい。

八丈町と議会BCPの位置づけについて

問 11月に行われた八丈町行政視察にて、滋賀県大津市議会での取り組みから多くの学びがあった。八丈町議会でのBCPが現時点では何も構築されていないという事態を踏まえ、今後更に問われている八丈町防災計画で、議会事務局の姿がみえる位置づけを行っていきように、災害時における議会の役割について、町の計画と議会の繋がり的重要性を念頭におき、行政視察で得た知見より質問する。BCPを策定する事によって、災害時における審議や執行部とのチェック機能も可能となり、結果として住民へのニーズを的確に反映する事に繋がる。町と議会との総合的な危機管理の見直しを前提として今後の町の方針を問う。

答 総務課長 八丈町が策定する業務継続計画は、独立した計画としては策定されていない。非常時優先業務の執行体制や対応の手順、資源等を確保する計画として、八丈町地域防災計画の見直しを進めている中で実施しなくてはならない策定項目の中に、宮崎議員が仰るとおりBCP策定内容がある。今後それぞれの役割を踏まえて連携と相互の協力体制の位置づけを考えていく必要性があると考えている。

BCPとは

業務継続計画（Business Continuity Plan）大規模災害時の非常時において、二代表制の趣旨に則り、議事、議決機関、住民代表機関としての議会が迅速な意識決定と、多様な住民ニーズの反映に資するという機能維持を図るため、必要となる組織体制や議員の行動基準を定めたもの

「大津市議会 BCP（業務継続計画）」より



山本 忠志 議員

所要時間 25分

町立学校のエアコン整備およびタブレット導入の計画は

問 小中学校体育館と特別教室の冷暖房整備計画を伺いたい。

答 教育課長 今年度から来年度にかけて行う、電気室容量等の調査結果をふまえ、全町立学校の特別教室等に設置する。最短で来年度に補助申請し、令和3年度に設置となる見込み。体育館については、特別教室等への導入状況を見ながら勘案していきたい。

答 町長 都より「電気容量を増やすための工事の補助はできないが、総合交付金の中で支援する」との回答を得た。特別教室・体育館、ともにスピード感をもって進めたい。

問 子どもたちがこれからの社会で生きていくために必要な資質・能力を育てるためにはタブレット導入等、ICTが活用できる教育環境整備が不可欠である。町の見解は。

答 教育課長 学校情報教育機器賃貸借契約が来年8月末で満了となる。それに合わせてタブレット導入を検討しており、普通教室と特別支援教室にWifi環境も整備する予定である。

災害に強い八丈町へ

先日、台風15号と19号が相次いで襲来し、各地で未曾有の豪雨災害が発生した。幸い八丈町は直撃を免れたが、災害に強い八丈町とするため、以下の三点を伺いたい。

問 各地区に安全な避難所の確保を。

答 総務課長 八丈町では23ヶ所の避難所を設置している。これは災害対策基本法及び

土砂災害警戒区域の現状に従って定めたもの。そのため、今後の檜立地区の避難所は三原小中学校となるのでご理解いただきたい。この件については檜立地区住民総会の場で説明する予定。

問 発災時の情報ツールとして、防災無線だけでなく八丈版防災アプリの導入を。

答 八丈町ホームページは、東京都防災ホームページや気象庁にリンクしているので、そちらも活用していただきたい。なお、アプリの導入など、今後有効な手段があれば検討したい。

問 地震対策として、家具転倒防止グッズの普及啓発に努め、グッズ入手の支援を。

答 広報などで家具転倒防止の重要性を周知し、入手の支援については、その問い合わせ状況に応じて検討する。



浅沼隆章 議員

所要時間 36分

自然災害発生時の対応について

大規模な自然災害が起こった場合、島民や観光客を含めた食料を賄わなければならない。災害時には様々な方への総合的な支援が必要。

問 自然災害時の島外避難の際の計画は。

答 総務課長 八丈町地域防災計画において、都内での受け入れ先の手配等も計画している。

問 初動対応から長期化した場合の災害マニュアルは策定されているか。

答 長期化した際の応急復旧活動のマニュアルもある。

問 都内での大規模災害による流通網が麻痺した場合の町の対応は。

答 全国都道府県における「災害時における広域協力協定」等で支援を要請する。

バス乗り場の乗客の安全と地域の安全について

問 バスの乗客が安全に乗り降りできるように、停留所の道路拡幅をすることは可能か。また、バス停留所別の乗客割合の把握はできているか。

答 企業課長 バス事業の経営状況から判断すると道路拡幅は難しい。利用頻度の高い停留所は町立病院・ふれあいの湯。

問 道路拡幅が可能であるならば、防火水槽の設置も検討していただきたいが。

答 消防長 防火水槽の設置については道路管理基準上、車道、歩道上(地下含む)に構造物は設置できないが、そこを外せば、道路管理区域内であっても建設は可能。島内に防火水槽は220基。

オリンピック・パラリンピックにおける八丈町の対応や観光客等の受け入れ準備について

問 2020年7月17日予定の聖火リレーの詳細な内容と予算は。その他八丈町における関連事業の予定は。

答 教育課主幹 聖火リレーの詳細は12月中旬以降に公表される。その他の事業は現在のところ予定していない。

観光と交通弱者対策について

問 自動運転バス実証実験事業が行われた。二次交通の不足や急増する訪日外国人観光客の移動の円滑化、観光客の誘致を図る取り組みや、運転免許返納後の高齢者や様々な理由により車を持つことができない交通問題を抱える島民のために、交通問題に取り組んでいく意思はあるか。

〔答〕産業観光課主幹 二次交通の確保は大きな課題と認識している。今回の事業は離島の二次交通を検討する上で重要な実証実験であったが、今後法的課題や事業性等様々な課題を総合的に検証する。

その他、以下の質問もしました。

◎ 町立八丈病院の町の方針について



金川 孝幸 議員

所要時間 15分

八丈町の防災体制について

最近50年に一度の災害などとよく耳にする。また、近年の台風は大型化し強い勢力を維持したまま接近または上陸して各地に甚大な被害をもたらしている。

〔問〕土砂災害ハザードマップには避難所一覧が掲載されているが、檜立地区には一か所も避難所はない。今後の避難所設置や遠方への避難支援体制を伺う。

〔答〕総務課長 檜立地区の避難所は地震や土砂災害時には使用不可で三原小学校の体育館に避難所を開設している。今後も既存の避難所を利用する。避難支援としては関係機関との連携や早めの避難をお願いしている。

〔問〕全ての避難所に災害備蓄はあるのか、避難所としての機能は大丈夫か。また、自主避難所に何を持って行けば良いのか分からないとの声も聞かれる。準備リストなど防災意識を高めるための周知を。

〔答〕災害備蓄は分散備蓄している。食料については町民一人当たり約3.5日分のアルファ化米を用意。自主避難所の定義と準備品などは広報12月号にて周知している。

〔問〕停電も多く発生しているが避難所が暗くでは安心して避難することはできない。非常

用の電源などの設置や夜間の照明は確保されているのか。また、広報では避難所で発生したゴミの持ち帰りをお願いしているが、衛生面に配慮し再検討を。

〔答〕各避難所には自家発電機を用意しているので照明は確保できる。ゴミについては別の区画に保管できるよう対応したい。

〔問〕毎年防災訓練を行っているが、町民の最も必要としている訓練は実際に被災経験のある台風では。また、町民に自助や共助を求めただけでなく、より現実的な訓練に変える必要があるのでは。

〔答〕防災訓練は毎年テーマを設けて実施している。自らの命は自ら守る自助と、近隣住民の助け合いである共助を念頭に、想定される訓練を充実できるよう検討したい。

〔問〕9月の台風15号では大島町や新島村でも甚大な被害があり、大島町では役場の職員も被災し対応が遅れているとの報道があった。交流のある島でもあり、お互いに助け合わなければならないと思うが町の対応を伺う。

〔答〕大島町の災害対応として、り災証明発行支援に10月に3回に分けて職員を派遣した。



沖山 恵子 議員

所要時間 22分

災害時の避難所の運営体制等はどうなっているか

八丈町は災害に強い町だと認識している。東京都と共に数々の防災対策を施しており、台風や地震で人が亡くなった記憶もない。しかし、年々台風は大きくなり、島も安心できない状況だと思う。また、南海トラフの地震や津波では、海岸沿いの民家は大きな被害が出るのではと心配である。住民が避難所に「自主避難」する時は自分で食事を用意す

る。しかし、本格的な避難所の運営をしなければならない場合、町が住民の衣食住を用意しなければいけないと思う。自主避難時、食事や服薬で使うお湯の提供がうまくいかなかったと聞いた。

問 避難所運営の具体的なマニュアルはあるのか。どのように運営するのか。

答 総務課長 マニュアルはありそれにそって運営する。

問 炊き出しは大量に食事を作る訓練だと認識している。今年の防災訓練では、婦人会による炊き出しが無かったのはなぜか。

答 2年前から婦人会の炊き出しは行っていない。連合婦人会が独自に炊き出し訓練を行った。今年町では自助の観点より、アルファ化米を配り住民に災害時の食料である「日常備蓄」についてPRした。

問 保健所によれば、防災訓練と避難所運営時に食事作りを規制する法律は無く、誰が何を作っても構わないとのこと。婦会も炊き出し訓練を望んでおり、今後は検討して欲しい。マニュアルには食事についてどのように書いているか。

答 食事の提供はマニュアルに記載はなく、その都度災害対策本部で検討し実施する。

問 弱者の避難についてどう考えているか。寝たきり、オムツ交換が必要な方等、業者の介護タクシーは一台しかなく、社会福祉協議会は病院やホームにしか移送しない。車イスの移送が出来る業者や社協と災害時避難所に移送する協定が結べないか。

答 先日の台風時、介護が必要な方を連れた家族が自主避難し、会議室にベッドを作り避難してもらった。支援の必要な状況に配慮し対応している。車イスの避難については協定を結んだ。

問 防災無線の鉄塔は風速何メートルまで耐えられる設計か。

答 風速60mまで耐える設計で腐食の点検もしている。



山下 巧 議員

所要時間 14分

生ゴミを資源化する施策の推進について

問 クリーンセンターは金属や硬化プラスチック以外はすべて焼却出来るため、住民には分別する習慣がなくなった。近年は食品廃棄物を飼料として加工し循環させる事業が注目されている。八丈でも生ごみリサイクルで焼却ゴミを減らし、クリーンセンターの規模も半減できるのでは。

答 住民課長 燃やせるゴミはH29年から118トン減少の2,863トンとなった。ゴミ総量の減少を勘案し現クリーンセンターの8時間当たり17トンと比較して新クリーンセンターは7割の12トンの処理能力で計画している。生ゴミはH30年に12.9%でH29年の15.8%より減少傾向にある。循環型社会形成をする上で生ゴミをたい肥化し畑に還すため家庭用生ゴミ処理のコンポストを配布。H30年は231基の実績となり生ゴミのリサイクル化に効果があったと推測する。今後は白色トレイや白色発泡スチロールを資源ゴミとして分別回収し八丈町に対応した生ゴミ施策を進めて行きたい。



地域の分割統合について

問 先日の自治振興委員の集いで地区によっては地域委員のなり手が無いとの意見があった。核家族化、世帯数の減少、高齢化のため

地域活動にも支障が出ている。地区住民の意見を聞きながら分割統合を。

答 総務課長 自治振興委員の役割は住民と行政の仲立ちや自治振興に関する事、自主防災の中心的担い手となる事などがあげられる。分割統合は地区の実情に配慮し振興委員が取りまとめ地域住民との同意に基づいて手続きをとる事となる。

医師看護師の不足とキャッシュレス決済について

問 以前から病院の医師、看護師不足が深刻になっているが、関係機関の協力を得ながら今一度活発な募集活動を。また、以前から要望されている治療費の支払いにキャッシュレス、カード支払いサービスを早急に。

答 事務長 医療スタッフの募集については東京都、大学病院、紹介業者、医療専門誌を通じて行っている。10月に薬剤師、11月に放射線技師を採用した。看護師募集は病院の雰囲気把握していただくため、航空運賃宿泊代を町負担で病院を見学する事業を昨年から行っている。看護師の負担を軽減するため新たに介護技能をもった職種の募集を多方面にかけていく。キャッシュレスについては患者様の利便性、利用状況、システム負担を検討し、導入に向けて進めてまいりたい。

火葬場に塩清め流し台の設置について

問 火葬場での通夜、葬式が増えてきた。専用の流しを設置出来ないか。

答 住民課長 H20年から供用の火葬場は宗教、宗派の違いによらず利用の可能な施設。すべての住民の利用に供するため特定の宗教宗派に供する設置は考えていない。



岩崎由美議員

所要時間 22分

島誌編纂の今後の予定は

問 過去の資料は、八丈島の誇りを再確認し将来の指針を考える上で重要。島誌編纂について、今後どのように進める予定か。

答 教育課長 今年度の事業内容は、東京都公文書館に寄託している資料の調査を実施。その後、八丈町所有資料、続いて民間所有資料の調査を行う。民間所有の資料の収集については広報等で協力を仰いでいる。

問 島誌編纂についての理念や全体の流れが見えてこないが。

答 島誌の改定から更新される内容については、準備委員会と町が一緒になって進めていきたい。

問 島誌編纂は大きな事業。町長の島誌に対する理念は。

答 町長 八丈島の特殊性を表に出せるような島誌にしたいというのが私の考え。

持続可能な八丈町のための施策づくりの推進を

問 基本構想・基本計画策定に関わる総合開発審議会委員に対し、研修、周知の取り組みはどのように実施するのか。

答 企画財政課長 6月の総合開発審議会初会合においてはSDGsの勉強セミナーを行った。来年2月に島を担う高校生と共にSDGsをキーワードにワークショップを予定している。

問 八丈島が抱える問題は複雑化していく。スケジュール的に密度濃くやっていかないと難しい。

〔答〕 現在、これまでの施策の検証を行っている。会議通知に合わせて結果をお知らせする。7月31日答申に向け委員の皆さまに絶大な御協力をお願いする。

気候変動に対する環境教育の充実を

〔問〕 八丈町の教育現場において、気候変動等「持続可能な社会」に向けての取り組みは。

〔答〕 教育課長 「持続可能な社会の創り手」に必要な資質、能力を育成することを掲げ策定された新たな指導要領に則り、教育を着実に遂行していくことが小中学校における「持続可能な社会」に向けた取り組みと考える。

〔問〕 新しい指導要領の下、教員の研修や地域との連携についてはどのようにお考えか。

〔答〕 夏期に東京都の主催で教員の研修会を実施している。環境教育に関する講習会が実施できないか、東京都と相談しながら取り組んでいきたい。



山下 則子 議員

所要時間 13分

高齢者の移動手段としてのシニアカーに補助金を

この頃、ハンドル形電動車椅子いわゆるシニアカーと呼ばれるものに乗った方を見かけるようになった。シニアカーは、速度6km/h（人が早足で歩くような速度）程度で、道路交通法上は歩行者扱いである。免許返納した方が、シニアカーに乗って八重根から河口の坂を登って行くのを見かけたが、その力強さに驚いた。しかしながらこの乗り物は、10万円台～数十万円もして、年金生活者には手が出ない。

〔問〕 そこで、免許返納後の足として、シニアカーを購入する際、少しでも補助金を出して

いただけたらと考えるが、いかがか。

〔答〕 福祉健康課長 免許返納者を含めた高齢者の移動手段を確保していくことは重要と認識している。現在、移送サービスの行き先の見直しなど、すでに関係機関と協議している。シニアカーは高額であるため全額補助は難しい。メンテナンスや修理等の維持管理の困難性、事故の恐れなどの課題等を考慮し、補助する場合の自己負担の考え方、今後利用希望者の調査、介護保険の給付も含めて協議していきたい。



女性がん患者のウィッグ購入に助成を

最近、町立八丈病院でも「がん」の治療が受けられるようになり、住民から感謝の声が聞かれる。特に女性の場合は抗がん剤の副作用による脱毛のため、精神的な苦痛を強いられている。そのためウィッグを購入しようとしても、高額のためなかなか手が出ない。

〔問〕 町でいくらかでも助成することにより、女性の社会進出や就労支援にも繋がると考えるが、町の考えを伺う。

〔答〕 福祉健康課長 すでに助成事業に取り組んでいる自治体は、平成29年4月の時点で48自治体。この中にはウィッグのみのところと胸部補整具とセットのところがあり、助成額は上限1万～3万円。豊島区も今年度から上限1万円としてセットで助成している。医療用ウィッグは、10万円以上と高額である。一部助成することで女性の社会進出や就労支援の一助となれば、大変有効な事業になる。慎重に協議検討を進めていきたい。

質疑より

12月定例会では一般会計、企業会計、特別会計の補正予算が上程され、質疑が行われました。主な内容を抜粋、要約して掲載します。

◎ ロベ100周年記念のイベントの予定は



小川 一 議員 ロベが八丈島に入ってきて100年と聞いているが、内容は。

産業観光課長 八丈島が導入したのは大正10年で令和3年で100年。

小川 一 議員 来年100周年ということだが、イベントや式典など何か計画しているのか。しているのであれば、いつ頃やるのか、どういうところでやるのか。

産業観光課長 令和2年度の産業祭の中で「フェニックスロベニー100周年」としてテーマを掲げてイベントを考えている。先日の産業祭の実行委員会でも報告し、開催の方向になっている。

◎ 看護師の職員体制の状況は



菊池 良 議員 過去5年くらい看護師定員がどのくらい充足していなかったのか。またベッド数や人員によって、補助金が減る基準があると思うが、その点は八丈町は該当してるのか。

事務長 看護師はこの11月現在22名在籍。30年は20名、29年は24名、28年は27名、27年は27名、26年は28名。補助金は影響ないが診療報酬が一定の割合を下回ると15%の減、それが3か月続くと30%の減でこの部分が懸念される。

菊池 良 議員 30年以前から比べるとかなりの人数が減っていると思うが、ここにある派遣看護師賃金というのは、その臨時に対応するための職員ということか。

事務長 その通りで、不足する分を業者に派遣してもらうのと、紹介してもらい一定期間

雇用する場合もある。

菊池 良 議員 それはどのくらいの人数か。

事務長 だいたい2人。

菊池 良 議員 その体制で影響は出ていないか。

事務長 この状態が続けば、労働環境悪化が懸念される。

◎ 公営企業管理者の不在について



廣江 才 議員 現在、公営企業管理者が不在になっているが、新たに決める考えはあるか。

町長 4月には私の判断で是非おきたいと思っている。

◎ マイナンバーカードについて



浅沼憲春副議長 マイナンバーの発行数は。

住民課長 現在1060枚。14.44%の交付率。

浅沼憲春副議長 東京に行ったときに利便性を考えてマイナンバーカードを使用しているコンビニ交付サービスを考えていただけないか。

住民課長 コンビニ交付サービスをするにはまず、自治体はその区域内にあるコンビニと業務委託契約を結ぶので、当然経費はかかる。その区市町村の住民の方が土日、時間外に利用するには確かに利便性があるが、八丈町住民にとっては、区域を定めることも、全国的に網羅することも不可能なため今現在は考えていない。

住民票については、定時内で戸籍は出ないが、例えば港区の区役所・支所にいけば、広域サービスという制度を用いて、住民票は交付されることになる。

滋賀県大津市・神奈川県相模原市行政視察報告

日時 令和元年 11月13日(水)～15日(金)

参加議員 宮崎陽子・浅沼隆章・山下則子・山本忠志・沖山恵子・山下巧

滋賀県大津市での視察の目的

- ・大津市議会で ICT を積極的に推進している理由
- ・マニフェスト連続大賞受賞における活動内容について

神奈川県相模原市での視察の目的

- ・SDGs12の廃棄物の削減・再生・再利用による廃棄物の削減の取り組みについて
- ・「余った食品を発酵飼料に」という取り組みについて

11月13日(水) 滋賀県庁では滋賀県危機管理センターを見学しました。阪神淡路大震災や東日本大震災を教訓として、いつ起こるかわからない災害に備え、対応するため、平成28年1月15日に総事業費約61.3億円をかけて設置された施設です。災害対策本部と研修・交流の2つの機能を備えており、平常時は地域防災力の向上のため、研修や交流、展示の活用等に利用されています。自分が住んでいる地域が地震や台風、土砂災害時などのような危険があるかを検索できるモニターがある等、減災の取り組みとして参考になりました。

14日(木) 大津市役所で議会局の方から説明を受けました。議会改革に先進的に取り組んでいる大津市議会=写真=は、5年連続でマニフェスト大賞を受賞される等、その活動が大きく評価されています。住民に分かりやすく、開かれた議会を目指しミッションロードマップの策定や、任期中の議会活動を事前に見える化する取り組み。議会の ICT 化は、議場の放送設備の老朽化をきっかけ



に議会活性化検討委員会で議論を開始。第1期改修工事で音響設備を全面改修、赤外線マイク・電子決済システムを導入。第2期改修工事で150インチの大型スクリーンを設置し、電子決済で議員の個別賛否が表示できるようにしました。その後タブレット端末を導入し、ペーパーレス化による経費節減と議会運営の効率化もできました。ICT化は時間をかけ何度も検討会議を行い、市議会が定めた目標達成のために必要なツールの一つとして導入したとのこと。

私が1番関心を持ったのが「軍師ネットワーク事業」です。専門的知見の活用が可能となる制度導入で外部の大学や弁護士会等の機関と連携することで、政策立案機能の向上と議事運営の課題解決の迅速化を図ることができます。

15日(金) 日本フードエコロジーセンターを見学しました=写真。

同社はごみ処理と畜産経営の2つの問題解決を背景に事業を展開する企業で、持続可能性



社会の実現に向けてSDGsを体現している最先端企業です。1日平均35トンの一般・産業の廃棄物(生ごみ)を全国から回収して、異物除去の選別作業を手作業や金属探知機、マグネットを使って行い破碎、殺菌処理を10分(80～90℃)、乳酸発酵処理を行って生産したリキッド発酵飼料をタンクローリーで契約養豚農家に配送しています。

この飼料で育てられた豚は半年で出荷され、大手食品スーパー等でブランド肉(優とん)として販売されています。代表取締役の高橋氏は、小田急沿線の人口が2020年から減少するという統計から、それに合わせた事業展開を小田急グループに求められ、地域が活性化し持続可能な社会を構築しようとして起業したそうです。八丈町も八丈らしさを失わず持続可能な島にしていくためにコンセプトを具体化することで、10年20年の未来像を考えていきたいと思いました。

この視察で学んだことを八丈町の町政に活かせるように努めていきたいと思いました。(浅沼 隆章)



今回からさまざまな世代の町民の方にインタビューします。

女子高生 将来目指す仕事は？

Q. 将来目指している仕事は何ですか？八丈島の今後について、どのような島になってほしいと思いますか？

私は、調理師を目指しているの将来は島を離れて東京都内で仕事をしていきたいと思っています。八丈島は利便性がないので、将来を考えると選択肢が少ない島よりも、都会の方が生活しやすいので、八丈島もいろいろな意味で便利な島になってほしいと思います。

(八丈高校2年A組 浅沼 雅)

私は、消防士を目指しています。島の人たちを助けたいです。女性が少ない仕事ですが、女性の消防士ならもっと安心してもらえると思います。中学生の頃、人の死に直面したことがあって、死戦期呼吸を知らなかったために助ける事が出来なかったという後悔がありました。最初は両親も反対していましたが、そこまでやる気があるのなら…と、今では消防士になりたい思いを認めてくれました。今後、ますます高齢者が多くなる中で将来、若い人が島に帰ってきた時に平等に受け入れてくれる島であってほしいと思います。

(八丈高校2年A組 持丸栄菜)

私は八丈島が大好きなので、島の人を助けるために消防士になりたいと思っています。中学3年の時に救命について指導して下さった消防士さんの話がきっかけで、教える立場に



左から浅沼雅さん、持丸栄菜さん・三菜さんになりたいと思いました。高齢化になり若い人がいなくなり、島がなくなってしまうたら嫌なので、島の人たちを支えたいです。ここまで育ててくれたのは島の人たちのお蔭だから、島の人たちを助ける仕事がしたいです。そして、事故や災害を防ぐ対策が整った島になってほしいと思います。

(八丈高校2年B組 持丸三菜)

(取材者 宮崎陽子)

※前回の移住者インタビューは1ターンではなくUターンでした。おわびして訂正します。

[あしがき]

昭和・平成・令和と日本は元号と共に時代が変わると言われます。令和になり、議会や議員の動きも変わって来ました。女性の議長・補欠選挙・議員と住民の対話集会・多くの島内施設を回る視察研修、今年度は様々な変化がありました。議員独自の動きが増え、今までより活発に皆さんの意見を聞き、見識を広め、よりよ

知恵袋インタビュー 川上 絢子さん

今回は、筆者の息子の担任でもあった川上絢子さんにインタビューしました。



Q. 教員生活の始まりは、いつからですか。

A. 内地でNTTに勤めていた時に、住んでいたアパートには、色々な人達が住んでいて、その方々に刺激を受けて、教師になりたいと思いい学校にいきました。そのため始まりは遅かったのです。昭和38年八丈小島の宇津木小学校から始まりました。当時の小島で電気やプロパンガスがあったのは学校だけで、私の住んでいた家もランプでした。なので、生徒のお母さんを学校に集めて料理を作ったり、とても懐かしい思い出です。自然と戦いながらの小島での生活で生きる力が増したと思います。

昭和40年八丈へ。三根・榎立・大賀郷小学校と赴任して、退職後は再雇用で中ノ郷小学校で5年間。今は、坂下3保育園で島言葉での読み聞かせボランティアをしたり、がじゅまるにも行ったり、大賀郷中学校では島の食材で調理実習もしています。薬も何も飲んでいないし、健康です！

Q. 昔と今の子供達の変化はありますか。

今どきの家は、電気掃除機なので、ホウキで掃くとか雑巾を絞るとかも学校でしかやらないかも。子供は失敗から学ぶことを親にもわかってほしいな。

Q. これからの子供達に言いたいことは何かありますか。私の小学6年生の時の夢は、「小学校の先生になりたい」でした。夢は持ち続けることで叶うと言いたいし、何事も根気よく取り組み、自分で生きる力をつけて、誠意ある大人になってほしい。

Q. これから挑戦してみたいことは何ですか。

これからというより、今チャレンジしているのが日本舞踊！楽しいよ～！

(取材者 山下則子)

い町づくりに取り組もうとしています。議会だよりも多くの島内の方に登場していただき、様々なお気持ちや意見を掲載しています。のちのち、令和の時代の議員はよくやったねと言われるよう、皆さんと共にこれからもがんばります。

沖山恵子

発行人 八丈町議会議長 奥山 幸子

編集 議会だより編集委員会 委員長 岩崎由美 委員 宮崎陽子 山下則子 沖山恵子

〒100-1498 東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2

tel 04996-2-2788 fax 04996-2-4437 メール gikai@town.hachijo.tokyo.jp

